被覆網対策によるアサリ資源の再生

藤曲浦地区活性化グループ

藤曲浦地区について

藤曲浦地区は、山口県南西部に位置する宇部市にあり、瀬戸内海側の周防灘に面す。

宇部市は、明治以降、石炭産業によって栄え、戦後、近代的な工業都市へと変貌を遂げ、現在も瀬戸内海有数の臨海工業地帯を形成している。

当地区は、こうした工業地帯の中にある漁村である。

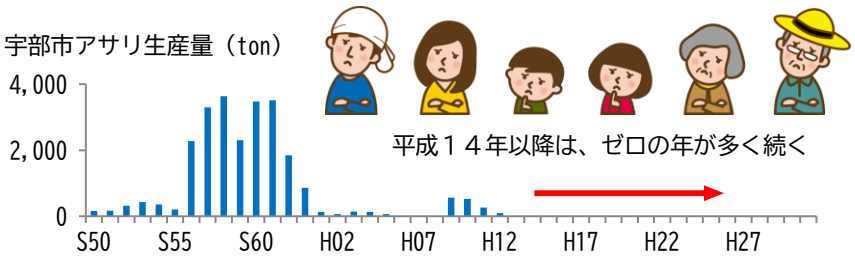
干潟の現況

当地区には、町を流れる厚東川によって形成された河口干潟が広がる。

かつては、アサリなどの採貝漁やクルマエビ漁、ウナギ筒、ノリ養殖など、干潟を利用した漁業が盛んに営まれていた。しかし、近年、干潟を利用する漁業は数件のノリ養殖だけとなり、アサリに至っては自家消費程度に留まっている。

干潟漁業の基幹であったアサリ漁業の生産量は、昭和 58 年の 3,636 トンをピークに平成初め頃から激減し、平成 14 年以降、統計上「ゼロ」が続く年が多くみられるようになった。

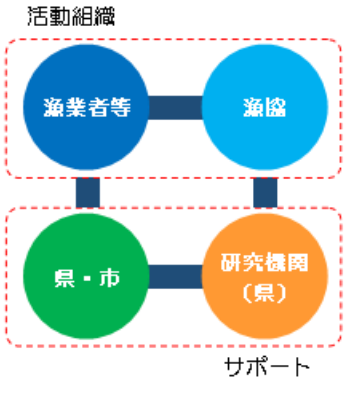
アサリは、地先の干潟を代表する生物であり、その回復を図ることは干潟の生産力の向上につながる。また、アサリは、かつて、地区の干潟漁業の基幹にもなっており、その資源回復は喫緊の課題となっている。



組織の設立および活動方針

上記課題の中、アサリやクルマエビ、ウナギなどの干潟漁業の復活を望む漁業者が中心となり、平成 25 年度に「藤曲浦地区活性化グループ」を設立した。

活動の目的は、「アサリなどの干潟を利用する生物の回復」。当面の目標として「アサリ資源 2～3 トンの回復・維持」を目指している。



被覆網対策によるアサリ資源の回復・維持

被覆網の設置および維持・管理	稚貝の確保と移植
・被覆網の設置、交換、メンテナンス ・定期的な網内の耕うん ・効率化を図る試験・検討	・網袋による稚貝確保 ・被覆網への稚貝移植 ・効率化を図る試験・検討

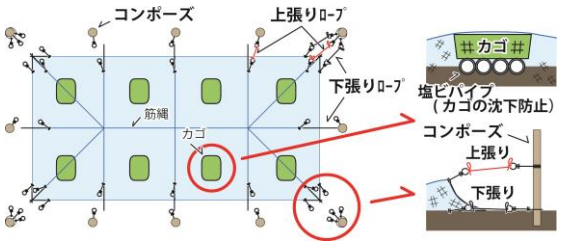
被覆網対策によるアサリ資源の回復・維持

（1）被覆網の設置および維持・管理

魚類による食害が大きい当地区において、アサリなど二枚貝資源を回復・維持させるには『被覆網の設置』が必要不可欠である。また、活動場所が河口干潟であることから、川の出水によって網に砂が堆積し、増水の度に被覆網下で稚貝が死滅しやすい環境にある。

活動当初は、網を浮子で浮かせ、砂の堆積を軽減させる対策を講じた。しかし、浮子にフジツボやカキが付着し、網を破るなど課題が生じた。こうした失敗と改良を重ね、現在は、プラスチック製のカゴを網の下に置いて被覆網をテント状に設置する方法を考案し、成果を得ている。

また、被覆網は、網交換などの定期的な管理が必要で、特に河口干潟ではその頻度が高くなる。そのため、当グループでは連結部にリングを付けるなど、網を容易に張り替えできる工夫を様々検討し、講じている。

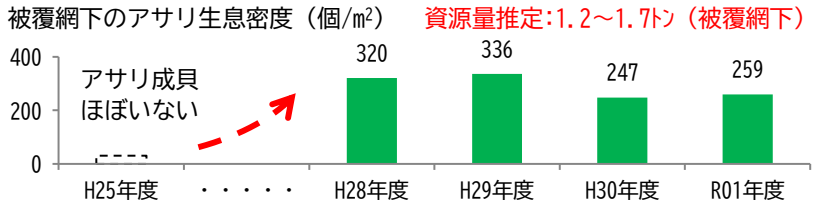


（2）稚貝の確保と移植

地先干潟にはアサリ稚貝が自然に着生する。しかし、その後の逸散や食害で安定確保が難しい。そこで、網袋による稚貝確保を行っている。

方法は、岸壁近くに堆積するカキ殻などの砕けた貝殻を拾い集め、網袋に入れ、それを稚貝が良く着底する場所に設置する。また、被覆網と同様に、出水によって網袋が砂に埋まりやすいことから、プラスチック製のカゴの中に網袋を入れ、設置する。設置時期は 8～9 月頃で、翌年 4 月頃に回収し、稚貝を選別して被覆網の下に移植する。

活動の成果と課題

現在、被覆網対策を図っている区画の面積は 1,000m² であり、その網下には 1m² あたり 300 個前後の水準でアサリ資源が回復・維持されている。活動当初のアサリの生息（特に成貝）はほとんど確認できなかったことから、大きな効果が得られている。

当該組織が活動を行う場所は川の河口域であり、被覆網の対策を講じるにあたっては砂の堆積への対応を考える必要があり、長年、試行錯誤してきた。今後も、アサリ資源が安定的に回復するまでは、被覆網対策の更なる効率化を目指し、活動を進めていく。